

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	歴史 2
科目基礎情報						
科目番号	0058		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子機械工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校世界史A（第一学習社）、1年生の歴史1から継続して新詳高等地図（帝国書院）も使用					
担当教員	中平 希					
到達目標						
1. 世界の歴史を通じて、人間活動と自然環境との関わりから生まれる様々な文化、宗教、各地域の地理的・歴史的特性を、科学技術や産業の発展が人間社会や自然環境に及ぼした影響も含めて学ぶ。 2. 文化の多様性を理解し、各地域の人々の交流や対立によって生み出されてきた様々な問題を、歴史的背景を含めて理解する素養を養う。 3. 提出物を期限内に仕上げて提出するスケジュール能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	授業であつかった世界史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果に至るまで説明できる。		授業であつかった世界史の概略を理解し、主要な事項について説明できる。		授業であつかった世界史の概略を理解できない。	
評価項目2	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成できる。		小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。		小テストの内容を理解できない。	
評価項目3	提出物をきちんと仕上げて、期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ヨーロッパを中心として、他地域にも言及しながら、古代・中世・近代の世界史を概観する。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。 小テストをしっかり復習すること。					
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳を置き、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古代		紀元前6世紀から紀元前5世紀に、世界で宗教や哲学が生まれていたことを説明できる（仏教、儒教、ギリシア哲学、ユダヤ教）。	
		2週	中国の古代		秦・漢帝国で皇帝が誕生し、儒教が国家の学問に採用され、後2000年にわたる帝国の原型ができたことを説明できる。	
		3週	ローマ帝国（1）		古代ローマ文明の特徴を説明できる。 パクス・ロマーナについて説明できる。	
		4週	ローマ帝国（2）		キリスト教の特徴と広がりについて説明できる。	
		5週	イスラームの成立		イスラームの特徴について説明できる。	
		6週	イスラーム帝国		スンナ派とシーア派の分裂、イスラーム帝国の拡大について説明できる。	
		7週	モンゴル帝国		モンゴル帝国によって、ユーラシア大陸の東西を結ぶ商業ネットワークが成立したことを説明できる。	
		8週	中間試験		これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
	2ndQ	9週	解答返却・解説 ビザンツ帝国		ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の成立について説明できる。	
		10週	西ヨーロッパの中世世界		教皇と皇帝を中心とした、西ヨーロッパの封建社会について説明できる。	
		11週	遠隔地交易と中世都市		商人と職人の世界である中世都市と、遠隔地交易の発展について説明できる。	
		12週	十字軍		十字軍運動とその失敗について説明できる。	
		13週	14世紀の危機		気候変動と疫病がユーラシア大陸に与えた影響について説明できる。	
		14週	大航海時代		アジアへのあこがれから始まったヨーロッパの「大航海時代」について説明できる。 ポルトガルとスペインの海外進出について説明できる。	
		15週	期末試験		これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
		16週	解答返却・解説 アメリカ大陸の古文明		アステカ王国・インカ帝国の概略について説明できる。	
後期	3rdQ	1週	スペインによる中南米征服		アメリカ大陸の文明がスペイン人の侵略によって滅亡したことを説明できる。 ヨーロッパとアメリカ大陸の出会いによって、双方がどういった影響を受けたのかを説明できる。	

		2週	グローバル化のはじまり	砂糖プランテーションと奴隷貿易と大西洋三角貿易について説明できる。 スペインによるフィリピン征服によって、太平洋での貿易が始まったことを説明できる。
		3週	ルネサンス	中世とルネサンスの考え方の違いが比較できる。 ルネサンスがイタリアで始まり、ヨーロッパ各地に広がった背景を説明できる。
		4週	宗教改革	ルネサンスの宗教改革への影響について説明できる。 ルターの宗教改革が、ドイツ農民戦争につながった経緯を説明できる。 カルヴァン派の予定説が商工業者に受け入れられたことを説明できる。
		5週	対抗宗教改革	カトリック内部の規律強化と海外への布教が、対抗宗教改革の柱だったことを説明できる。 16～17世紀のヨーロッパが宗教戦争の時代だったことを説明できる。
		6週	主権国家の成立	近世の主権国家のなかで、国王による中央集権化が進んだことを説明できる。 16世紀に新たに生まれた主権国家同士の関係が、後の国際関係の基本的な考え方につながったことを説明できる。
		7週	ハプスブルク家の盛衰	16世紀のハプスブルク帝国の拡大、スペイン帝国の繁栄と弱体化、ネーデルラント独立とイギリスとの構想について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	4thQ	9週	解答返却・解説 三十年戦争	ドイツ三十年戦争と主権国家体制の成立について説明できる。
		10週	フランス絶対王政	ユグノー戦争の終結と、ルイ14世の絶対王政について説明できる。
		11週	イギリス革命	ジェントルマン階級の成立と、17世紀の革命によって、イギリスで議会主権が定着したことを説明できる。
		12週	アメリカ独立革命とフランス革命	アメリカ独立革命とアメリカ大陸での領土拡大について説明できる。 フランス革命とその後の混乱、ナポレオンの台頭と敗退について説明できる。
		13週	産業革命と労働運動（社会主義）のはじまり	産業革命の背景と展開の概略を説明できる。 産業革命が生活面でもたらした変化について説明できる。 資本主義経済と社会主義思想を比較し、概略を説明できる。
		14週	イギリスの繁栄と世界市場の形成	「世界の工場」イギリスの経済政策について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	解答返却・解説	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	1	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	1	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	1	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	1	

				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	1		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0